

インターバンクの声（2017 年 2 月 2 日）

トランプ米大統領が日本と中国が長年にわたって通貨安政策を取ってきたと批判したことで 112 円台前半までドル売り・円買いが進んだ円相場だったが、東京市場では意外に感じられるほどあっさりと 112 円台後半、そして 113 円台へとドルが買い戻された。

米国、しかも現職の大統領が直々に通貨安を批判してくれば、以前なら 3～4 円位は平気でドル売り・円買いが進んだと記憶しているが、昨日は 112 円台前半に留まった時間も短かったことには驚いた。

安倍首相や浅川財務官の反論が思いのほか効果的だったとの声も聞かれたが、市場にトランプ米大統領のこの手の発言に免疫ができ始めてきた証なのかもしれない。

ロンドン市場で比較的穏やかな相場が続いた後、ニューヨーク市場では ADP 雇用統計や ISM 米製造業景況指数が市場予想を上回る結果を示し、円相場も 113 円台後半までドルの上昇が続いたが、114 円台を見ることなく米連邦公開市場委員会 (FOMC) 後には再び 112 円台にドルが下落してしまった。

利上げに向けて委員会メンバーがタカ派に傾かなかったことが気に食わなかったようだが、ドルの上値が重いと感じている投資家が多いのも確かだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。